

社会も政治も昭和のまま

今の日本社会は、昭和の時代に基本的な原型が作られています。「昭和の時代」とは、人口が増え続けた時代です。そして経済が高成長です。さらに、ほとんどの人が正社員になっています。その上に、毎年給料が上がった時代です。それで生活が良くなりました。だから、結婚も、子育ても、教育も、医療も自分でやってく下さい。自己責任ですよ、自助努力でお願いしますね。そう言われても、それでやっていける時代でもありません。昭和の時代、「明日は



イメージ

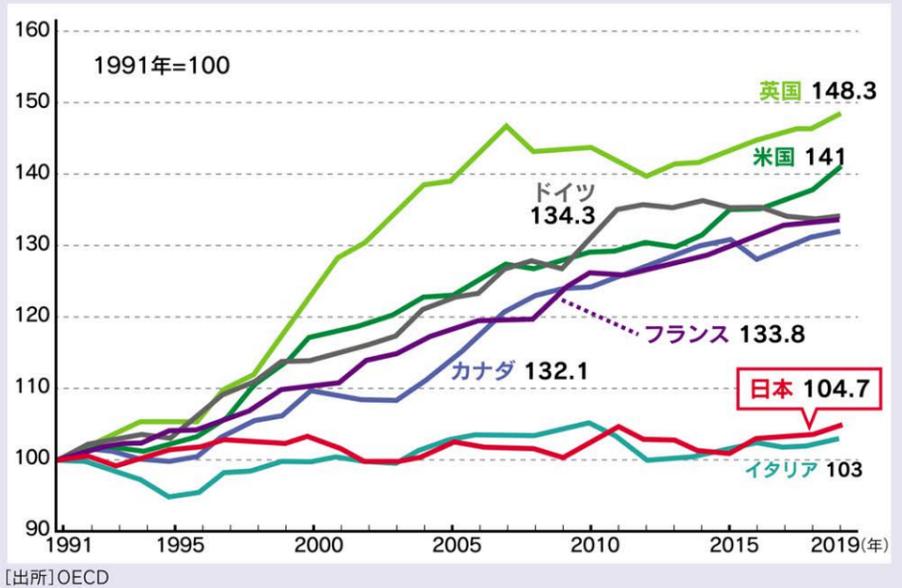
今日より必ず良くなる」と誰もが思えた時代でした。今の若年層の10代20代は、「明日は今日よりも厳しくなる」と思いながら生きています。30代もそうです。そして、平成の30年間、人口は減少に転じ高齢化も進んでいます。正社員は高嶺の花になりつつある時代です。年々賃金が上がるといふ幻想は最早成り立たなくなり、社会保障の負担ばかりが増えていきます。

また、今でも生活に関わるほとんどすべてのことは、「自助努力」を強調され、「自分で頑張れ」と言われ、「自己責任」だと思いつまわれています。そして、しわ寄せが行った人ほど、「自分のせいじゃないか」「自分が頑張りが足りないからじゃないか」という感情にまで追い込まれ、「自己責任」「自己否定」の感情で苦しんでいる方がたくさんいます。この苦しみから逃れられず自死する方も跡を絶ちません。私は、はつきり「それは違う！」と申し上げたい。

時代が変わったのに、社会が変わってないことで、多くの人が不安と不満と、時に怒りに苛まれていきます。これはほとんどすべてが社会の責任です。しかし、なぜ時代が変わっているのに社会が変わらないのか？それは、政治が変わってないからです。

これだけ社会が変わっているのに政治が昭和のままです。このことから、国も自治体も原型は昭和の時代のままです。そして、これを良しとする昭和の視点には、憤りを覚えることも度々です。可処分所得が400万円未満の世帯も30年前に比べ増えている

図3 主要先進国の実質賃金指数の推移



[出所]OECD

ます。子育て世代は昭和の時代より厳しい環境の中で生活しているのが実態です。然るに、子どもたちが、将来「大分市に生まれて良かった」「自分も大分市で子育てしたい」と思っているように、これからは、私も子ども・子育て世代の施策に取り組んでいきます！



衛藤 延洋

えんよう えんよう 無所属 昭和32(1957)年11月生まれ 平成29(2017)年2月19日 大分市議会議員初当選 令和3(2021)年2月21日 大分市議会議員2期目当選

- 経歴
・大分市役所25年間勤務
・衆議院議員公設秘書
・医療法人事務長
・放送作家
資格ほか
・国会議員政策担当秘書
・行政書士
・イベント一級業務管理士
・防災士
・日本大学史学会会員
・認知症キャラバンメイト
・くもん学習療法実践士

大分/大分市にしが丘3-11-4 TEL 090-1163-5500 FAX 097-546-3801 松岡/大分市松岡5417-1 鶴崎/大分市東鶴崎2丁目3-35 mail:info@en-oita.com



衛藤 延洋 議会レポート

えんよう



ENYO ETO Report vol.34 2022.春号

ウクライナへのロシアの侵略に見られるように、外交は対立では何も生みません。トルコ人から「トルコの英雄」と尊敬される、大分市出身・宮崎淳さんの功績を地元の私たちが語り継ぎましょう

日本とトルコの歴史が縁

明治23年、天皇に謁見したトルコ帝国使節団が和歌山県大島沖で台風遭遇。約600名が遭難する大海難事故が起きた。大島島民は不眠不休で救助や遺体捜索、引き上げにあたりました。

そして、イラン・イラク戦争渦中の1985年、イラクのフセイン大統領が「48時間後に、イラン上空の飛行機を無差別に攻撃する」と声明を発表。世界各国は国民救出のために救援機を出しますが、日本の救援機の派遣は見送られ、空港にいた日本人は途方に暮れていました。この時、救いの手を差し伸べたのがトルコ共和国です。トルコからの救援機により、215名の日本人全員がイランを脱出したのは、爆撃の1時間前のことでした。



海外からの支援に感謝

こうした歴史的経過や、各国の支援に感動した人が、大分市出身、当時41才の宮崎淳さんでした。震災から7ヶ月後の10月、トルコ東部で死者600人の大地震が発生すると、東日本大震災の支援の感動を経た宮崎さんは救援活動に駆けつけました。地元の人々は余震を恐れ避難する中、宮崎さんらの活動に感謝したといいます。ところが、翌月の余震で宿泊先のホテルが倒壊。生き埋めとなり搬送中に亡くなりました。この地震から昨年11月で10年を経過しましたが、この間トルコの人たちは宮崎さんのことを忘れることはありませんでした。

英雄とトルコで呼ばれ、各地に「ミヤザキ」の名を冠した公園や学校、さらには書籍も出版され追悼されています。一方で、出身地大分での「宮崎淳」の認知度



トルコ東部大地震の被災者に支援物資を手渡す宮崎さん(2011年) 出典:大分市ホームページ

は高くはないことから、私は、功績を讃える行政の取り組みや学校現場での教材としての活用を提案しました。私の提案を契機として学校においても取り組みを更に前へ進めることとなりました。近い将来、大分の子ども達がトルコの人と出会い、宮崎さんの活動やトルコとの友好関係を誇りとして語れる日が来ることを、期待してやみません。

トルコから黒海を挟んで北側がウクライナ、北東がロシアになります。ロシアの侵略で悲惨な映像を日本の子どもたちも残念ながら目にしていることでしょう。宮崎さんの功績を知り、人権や平和主義を尊重する大人になってほしいものです。戦争や対立では、外交は何も生みません。

ENYO ETO Report Vol.34 2022.春号 第34号 発行月令和4年5月 大分市議会議員 衛藤えんよう TEL:090-1163-5500 FAX:097-546-3801 Email:info@en-oita.com

討議資料